

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	社会教育事務		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け							実施根拠＜法令、要綱等＞				
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）										
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	01 生涯学習						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）							<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	社会教育事業全般						社会教育事業の円滑かつ効率的な運営					
	実施内容						実績・成果					
	社会教育課事務経費（社会教育主事嘱託職員報酬等、青少年教育協力者感謝状記念品、事務用消耗品、「昭島の社会教育」冊子製本、社会教育課用軽自動車燃料・維持管理費などの支払い等、庶務的な事務を行う。						社会教育事業の適切・効率的な運営を図った。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	3,359	3,529	3,435	3,424	その他特定財源 ・雇用保険料				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円	12	12	10	10					
		一般財源	千円	3,347	3,517	3,425	3,414					
	一般職員人件費		千円	2,421	2,490	2,394	1,664					
	人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.20					
	再任用職員人件費		千円	2,225	2,261	2,357	1,374					
人工数		人	0.50	0.50	0.50	0.30						
総事業費		千円	8,005	8,280	8,186	6,462						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由 社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は7番目である。						判断理由 第2次生涯学習推進計画「あきしま学びプラン」を推進するために、様々な社会教育事業の円滑かつ適切、効率的な運営を継続的に図るためには引き続き直営で行うことが望ましい。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由 昭島市生涯学習推進計画を推進するために様々な社会教育事業を円滑かつ適切、効率的に行っている。						判断理由 再任用職員、嘱託職員、臨時職員を採用し、事務の効率化、健全化を図っている。また、事務経費の削減にも日々努力を重ねている。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 平成31年にガスタンクの更新ができなくなるため、庁用車の買い替え又はタンクの積み替えが必要である。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	社会教育委員事務		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					社会教育法、昭島市社会教育委員設置条例					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					法令による事業実施義務					
中項目	01 生涯学習											
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	003	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	社会教育委員					社会教育委員の活動及び社会教育委員会議の円滑な運営						
	実施内容					実績・成果						
	社会教育委員会議が毎月開催（1回2時間）され、それら会議の会議録の作成、関係資料の作成・配付、情報の提供や委員報酬の支払いなどを行っている。 また、社会教育関係の研究大会や東京都市町村社会教育委員連絡協議会に参加し、研修及び情報交換を行うことにより、情報収集やその活用を行っている。					平成28年度は第2次生涯学習推進計画「あきしま学びプラン」の中間評価について諮問を受け、9月に答申を行った。そのほか、社会教育関係委員研修会への参加や、他市の動向などを把握するために関係団体が主催する研修等へも積極的に参加している。						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	1,412	1,407	1,372	1,430					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	1,412	1,407	1,372	1,430						
一般職員人件費		千円	1,614	1,660	1,596	832						
人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.10						
再任用職員人件費		千円	445	452	471	458						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
総事業費		千円	3,471	3,519	3,439	2,720						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				社会教育法第15条及び昭島市社会教育委員設置条例に基づき設置されている。		判断理由				月1回の会議も、市役所もしくは市立会館などで実施しており、会場費等無駄がない。	
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由				平成28年度は第2次生涯学習推進計画「昭島学びプラン」の中間評価について答申をまとめ提出した。		判断理由				月1回の会議も議長を中心にスムーズに進行し、毎回有意義な意見が交わされている。適宜研修等へも参加し、その内容について共有する等、有効かつ効率的に運営されている。	
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題					今後の方向性（右より選択）		E A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				
	社会教育委員は非常に活発な活動をしており、第2次生涯学習推進計画の進捗状況の確認や、市の生涯学習の推進に関し大きな影響を与えている。					平成30年度予算編成における具体的な取組 社会教育委員の活動の中に全国社会教育研究大会と、関東甲信越静研究大会への参加があり、隔年でそれぞれに参加しているが、全国大会は遠方で開催されることも多いため、30年度以降は関東甲信越静研究大会への参加のみとしたい。						

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	社会教育関係団体指導育成事業		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						社会教育関係団体登録要綱、青少年教育協力者感謝状贈呈要綱、子ども会活動費補助金交付要綱、社会教育関係団体補助金交付要綱				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	01 生涯学習						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）							<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	004	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	社会教育関係団体等						市民の自主的な社会教育活動を促進し、市の社会教育の発展を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	指導者等を対象とした研修会の開催。補助金の交付、社会教育関係団体の登録、更新事務。						平成28年度は指導者、子ども会のリーダー等を対象とした研修会の開催や、団体活動ステップアップ研修を実施した。それぞれ延べ30名弱の参加があり有意義な研修であった。補助金の交付は子ども会連絡会へ1団体、単位子ども会へ36団体、社会教育関係団体等へ5団体に交付し、各団体の継続的かつ活発な活動の一助となっている。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	1,299	1,402	1,252	1,298	その他特定財源 ・各種講習会等負担金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円	8	18	22	18					
		一般財源	千円	1,291	1,384	1,230	1,280					
一般職員人件費		千円	807	830	798	1,664						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.20						
再任用職員人件費		千円	445	452	471							
人工数		人	0.10	0.10	0.10							
総事業費		千円	2,551	2,684	2,521	2,962						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				判断理由							
	社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は8番目程度である。				補助金の交付は民間やNPOに任せるのではなく、直営が妥当と考える。研修会、社会教育関係団体の登録業務は民間委託も可能と思われるが、全体の業務量を考えると、委託化は妥当ではない。							
③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4		
判断理由				判断理由								
指導者研修会への出席で得られる今後の活動へのヒントや、補助金の交付により、自主財源だけでは実現できない事業を展開している。社会教育関係団体の登録制度は市民がサークル活動に参加したいとき等の参考として活用されている。				研修会を委託することは可能であるが、年間2回程度開催する研修会を委託することは、あまり効率的ではなく、現在の直営方式が妥当である。								
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	子ども会の数が減少を続けている。子ども会への補助金の交付のあり方を検討し、より魅力のある制度にすることで子ども会の活性化を図りたい。											
	今後の方向性 (右より選択)	<div style="font-size: 2em; text-align: center;">A</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div>A 成果拡大に向けて実施方法を見直し</div> <div>B コスト改善に向けて実施方法を見直し</div> <div>C 抜本的な見直し</div> <div>D 縮小・廃止</div> <div>E 現状を維持</div> </div>										
平成30年度予算編成における具体的な取組												
新たな補助制度を計画する。												

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	生涯学習推進事業		部	生涯学習部			課長	伊藤 雅彦				
			課	社会教育課			担当	吉村 久実				
			係	社会教育係			電話	内線2259				
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞	
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					昭島市生涯学習校区協議会補助金交付要綱					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					法令による事業実施義務					
中項目	01 生涯学習											
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	005	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民						各々が課題を見出し学び続ける生涯学習活動を通し、生きがいの発見、自己実現を図り、その成果を生かした活動をしていくことで、地域への愛着心をはぐくみ、住み続けたい街昭島へのまちづくりへ貢献する。					
	実施内容						実績・成果					
	○中高年のためのパソコン講習会 パソコンの操作技術を習得することにより、地域活動・生涯学習活動の推進を図る。 ○生涯学習サポーターの養成 養成講座を開催することにより、生涯学習のさらなる推進を図っている。						○中高年のためのパソコン講習会 福島会館パソコンルームで開催。延42名の参加があった。アンケート結果からも概ね満足頂いた。 ○生涯学習サポーター養成講座は受講者15名、今後の活動に期待したい。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	422	621	340	445	都支出金 ・高齢社会対策区市町村包括補助金 その他特定財源 ・各種講習会受講料				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円	17	21	14	21					
		地方債	千円									
その他特定財源		千円	14	13	14	13						
一般財源		千円	391	587	312	411						
一般職員人件費		千円	2,421	2,490	2,394	1,664						
人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.20						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	2,843	3,111	2,734	2,109						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は4番目程度である。		判断理由				パソコン教室では受講者から講師料の一部を受講料として徴収している。生涯学習サポーター養成講座は、前期の受講者も再度受講することで、より理解度が深まり、また、後期の受講者とも交流を深めることができ活動の活性化が図られた。	
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由				校区協議会の活動は推進が図れていないが、地域にあるウィズユースの活動は活発である。生涯学習サポーター養成講座受講修了者への期待は高く、2回目のサポーター養成講座を開催することができた。		判断理由				中高年のためのパソコン教室は職員の負担も少なく概ね効率よく実施されている。生涯学習サポーター養成講座については、始まったばかりの事業であるので、今後の修了者の活動に大いに期待したい。	
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	○生涯学習援助協力者のさらなる推進を図り地域のつながりと絆を実感できるよう取り組まれない。 ○生涯学習サポーターのさらなる育成を図るとともに活動の活性化を目指す。											
	今後の方向性 (右より選択)	E A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持										
平成30年度予算編成における具体的な取組												
生涯学習サポーターを育成するため、講習会の開催数の増加を計画する。												



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	成人式開催事業		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					昭島市生涯学習校区協議会補助金交付要綱					
	大項目	02 ともにあゆむ（青少年の育成）					法令による事業実施義務					
中項目	01 青少年の健全育成											
個別計画（年度）							<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	006	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	当該年度に20歳になる新成人						人生の節目として新しい門出を祝福し、成人としての自覚を促し、昭島市民であることを再確認する。					
	実施内容						実績・成果					
	成人の日にフォレスト・イン昭和館 シルバンホールにおいて、式典及び茶話会を開催している。新成人の実行委員による企画により、茶話会には中学校の恩師を招待し、現在の中学校の映像を会場で上映するなど、世代に合った内容の運営が行われている。 成人式当日は職員のボランティアを活用し、会場整理にあたった。						平成28年度の出席者は、対象者1,041人に対し、参加者749人、参加率72.0%と高い出席率となっている。 平成28年度も会場外に警備員を配置し、式の安全を確保するとともに、会場内に職員ボランティアを配置し会場整理を実施した。混乱もなく盛大に実施できた。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	2,405	2,430	2,393	2,485					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	2,405	2,430	2,393	2,485					
	一般職員人件費		千円	1,614	1,660	1,596	1,664					
	人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20					
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	4,019	4,090	3,989	4,149						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				判断理由							
	社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は10番目程度である。				昭島の未来を託す新成人を祝福し、成人としての自覚と昭島市民であることを再確認し、郷土愛を育むため、新成人が一室に会するホテルでの式典は本市の特徴であり、妥当であると考え。							
③達成度（成果はどの程度あるか）				5		④効率性（効率的に実施できたか）				4		
判断理由				判断理由								
新成人として社会に羽ばたくこの時期に、子ども時代を振り返り、地元の良さを再確認し、自分を育ててくれた「あきしま」にこれから何が出来るか、考えていただくためには非常に有効であり、毎年高い出席率を誇っている。				新成人による実行委員会形式の運営と、フォレスト・イン昭和館を利用することにより、従事する職員の削減と、高い出席率を実現している。式典当日に職員ボランティアを配置し会場整理を行ったことにより、式典終了後の混雑解消に効果が見られた。								
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	新成人を対象とした成人式実行委員の応募者は7人であった。広報やホームページ、市内施設へのポスター等の掲示などは引き続き行い、多方面への声かけも行っていきたい。さらに、成人式への機運を盛り上げるため、新成人向けにツイッターを使い情報を配信するなど、より良い成人式に努めたい。 また、式典終了後のホテル敷地内の滞留解消に向け、引き続き改善を行う。											
	今後の方向性 (右より選択)	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">E</div> <div> A 成果拡大に向けて実施方法を見直し  B コスト改善に向けて実施方法を見直し  C 抜本的な見直し  D 縮小・廃止  E 現状を維持 </div> </div>										
平成30年度予算編成における具体的な取組												
現状を維持												

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	土曜地域ふれあい事業		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	O3 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					昭島市生涯学習援助協力者活用要綱					
	大項目	O2 ともにあゆむ（青少年の育成）					法令による事業実施義務					
中項目	O1 青少年の健全育成											
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり						
予算科目コード	款	10	項	04	目	01	細目	007	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	小学生、中学生、保護者、ボランティア講師					子どもたちの居場所づくりと生涯学習の推進。楽しみながら異世代間や異年齢の子ども同士の交流による人間関係の形成。						
	実施内容					実績・成果						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>囲碁教室 小・中学生を対象に登録ボランティアである講師が、囲碁についての指導を行う。</li> <li>陶芸教室 小・中学生を対象とした教室を3回実施し、いずれも登録ボランティアが陶芸の指導を行い陶芸作品を制作。</li> <li>陶芸教室作品展 市役所ロビーで、陶芸教室参加者の作品を展示</li> </ul>					社会教育関係団体や地域の市民ボランティアによる講師は、子どもや保護者などの異世代間のふれあいを通じいきいきとし、土曜地域ふれあい事業が生きがいにもなっている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁教室 夏休みをのぞく6月から10月の第1、3土曜日 延べ参加者 小学生296名、ボランティア講師86名</li> <li>・陶芸教室 7・10月の土曜日（6日間） 延べ参加者 小学生94名、ボランティア講師48名</li> <li>・陶芸教室作品展 市役所ロビーで、指導にあたった講師の先生方の日頃からの作品と、陶芸教室参加者の作品を展示。</li> </ul>						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	51	107	77	83	その他特定財源 ・各種講習会受講料 ・市民総合賠償補償保険金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円	13	37	43	37						
一般財源		千円	38	70	34	46						
一般職員人件費		千円	1,614	1,660	1,596	1,664						
人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20						
再任用職員人件費		千円	890	904	943	916						
人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20						
総事業費		千円	2,555	2,671	2,616	2,663						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は13番目程度である。		判断理由				囲碁教室も陶芸教室も講師はボランティアで運営しており、地域住民の技能や技術を活かす場として、実施している。	
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由				囲碁をすることにより集中力、創造力、豊かな発想、礼儀正しさが身につく、対局の勝敗による喜び・悲しみ・葛藤が人格育成に必要な感情をコントロールする訓練となり、子どもたちを成長させた。また、陶芸を通して物づくりの体験、喜びを味わうことができた。		判断理由				囲碁教室・陶芸教室ともにボランティア講師で運営しているので、経費も少なく支出を抑えて実施している。	
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 ○学習指導要領が改正され、土曜授業の増加が見込まれている。 ○学校週休2日制が開始されてから一定の期間が経過したため、児童の土曜日の過ごし方に変化が表れており、居場所づくりとしての役割は終えてきたものと考え。						今後の方向性 (右より選択)		D		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組 次年度の学校のカリキュラムが決まってからになるが、事業の縮小は避けられないと思われる。ただし、事業費に大きな変化はないと思われる。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署											
	文化財保護審議会事務		部	生涯学習			課長	伊藤 雅彦						
			課	社会教育			担当	小林 光吉						
			係	文化財担当			電話	内線2259						
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞			
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						文化財保護法、昭島市文化財保護条例、昭島市文化財保護審議会条例						
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）						法令による事業実施義務						
中項目	05 文化財													
個別計画（年度）											<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり			
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	001	細々目	01				
事務事業概要	目的													
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞							
	昭島市文化財保護審議会						昭島市における文化財の保護・保存及び活用に関する必要事項等の調査・審議を行う。また、指定・解除等の諮問及び文化財行政の運営等に関し、審議・答申及び文化財行政に関する指導・助言等を行う。							
	実施内容						実績・成果							
	昭島市教育委員会から文化財の指定・解除等の諮問及び文化財行政の運営等に関し、審議・答申及び文化財行政に関する指導・助言等を行う。 定例会は隔月1回及び臨時会 委員8人（条例上10人以内）、月額報酬11,000円						文化財の保護・保存及び活用に関する必要事項の調査・審議をするために設置された附属機関であり、教育委員会の諮問により市指定文化財23件の指定及び都指定文化財10件に対して意見具申並びに「アキシマクシラ」の化石の生存年代の変更、市指定天然記念物「郷地の大桑」（昭和46年指定）指定解除（平成24年度）の答申、「拝島日吉神社祭礼屋台」3基の現状変更承認及び修理復元等に対して指導・助言など、実績は顕著なものとなっている。 また各種文化財事業等への指導・助言を行っている。							
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞						
	直接事業費		千円	1,058	1,187	1,064	1,076							
	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都支出金	千円											
		地方債	千円											
その他特定財源		千円												
一般財源		千円	1,058	1,187	1,064	1,076								
一般職員人件費		千円	1,614	830	798	832								
人工数		人	0.20	0.10	0.10	0.10								
再任用職員人件費		千円												
人工数		人												
総事業費		千円	2,672	2,017	1,862	1,908								
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による													
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				2			
	判断理由	文化財保護法の規定に基づき、文化財保護審議会条例に定められている。						判断理由	文化財に係る様々な分野の専門知識を持つ方々で構成され、年6回の審議会を開催。市の責務となる文化財の保護。保存及び活用を行ううえで、専門職（学芸員）の設置がされていない中、審議を行い指導・助言等をいただいている。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3			
	判断理由	教育委員会の諮問により、市指定文化財の23件、都指定文化財10件、国史跡1件に意見具申並びに「アキシマクシラ」の生存年代の変更、平成24年度には、市指定天然記念物「郷地の大桑」の指定解除の答申など実績は顕著である。						判断理由	昭島市特別職の職員の報酬及び実費弁償に関する条例に基づき委員報酬（月額11,000円）を支出している。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題													
	専門職員（学芸員）が設置されていないなか、文化財保護審議会委員の役割は重要である。 また、市文化財行政にとって、専門的見地からの指導・助言等をは必要である。 なお、委員の高齢化及び新規の委員発掘が急務。													
今後の方向性		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持										
平成30年度予算編成における具体的な取組														
引続き、文化財の保護、保存及び活用等について専門的見地から、助言、指導等行う。														



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	文化財保護事業		部	生涯学習			課長	伊藤 雅彦				
			課	社会教育			担当	小林 光吉				
			係	文化財担当			電話	「内線2259」				
	第五次総合基本計画における位置付け							実施根拠＜法令、要綱等＞				
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						文化財保護法、同施行規則、昭島市文化財保護条例、同施行規則				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）						昭島市文化財保護事業費補助金要綱				
中項目	05 文化財						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）											<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり	
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	002	細々目	01	<input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民及び文化財の所有者及び管理者、保存団体（保持者）等						文化財の保護・保存をするとともに多くの方へ文化財を公開することによって文化財保護思想の高揚・普及・啓発を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	文化財めぐり等を開催し、郷土の歴史、文化、自然に触れてもらい文化財の保護、保存の重要性について啓発するとともに、シニア世代の活力を活用し、文化財ボランティアガイドとして、郷土資料室の管理、まが玉作り教室、文化財めぐりの案内（説明）などの活動を行う。 また、市指定文化財、都指定文化財の保護・保存を行うための修理等に係る事業補助及び後継者育成に係る補助を行う。						<ul style="list-style-type: none"> <li>・都指定天然記念物「拝島のフジ」開花時に拝島公園内史跡めぐり：4月29日実施 参加者49名</li> <li>・まが玉作り教室：8月5日実施 参加者22名</li> <li>・『アキシマクジラ』と「超肉食恐竜 T-REX」に会いに行こう！参加者：大人41名・中学生以下21名：計62名</li> <li>・文化財めぐり： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：10月22日東部地区（福島・郷地）コース 参加者23名</li> <li>第2回：11月12日玉川上水・柴崎分水コース 参加者28名</li> </ul> </li> <li>・文化財保存修理 <ul style="list-style-type: none"> <li>都指定無形民俗文化財「拝島日吉神社の禰尊」宮神輿修理</li> <li>市指定天然記念物「大公孫樹」緊急剪定事業</li> <li>都指定有形文化財「木造大日如来（金剛界）坐像」ほか2軀修理</li> <li>市有形民俗文化財「拝島日吉神社祭礼加美町屋台」屋台小屋修理</li> <li>・国登録有形文化財「西川家旧別邸蔵」（平成28年11月29日登録）</li> </ul> </li> </ul>					
	コスト	(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞					
	直接事業費	千円	9,454	2,586	4,814	10,000	都支出金					
	財源内訳	国庫支出金	千円				・市町村総合交付金					
		都支出金	千円	4,105			その他特定財源					
		地方債	千円				・特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金					
その他特定財源		千円	59	382	401	6,832	繰入金					
一般財源		千円	5,290	2,204	4,413	3,168	・各種印刷物頒布代金					
一般職員人件費	千円	2,421	2,490	2,394	2,496	・各種講習会等負担金						
人工数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	・地域創造「地域伝統芸能等保存事業助成金」						
再任用職員人件費	千円	1,335				・市民総合賠償補償保険金						
人工数	人	0.30										
総事業費	千円	13,210	5,076	7,208	12,496							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	条例等で定められている。					判断理由	市無形民俗文化財「拝島日吉神社祭礼囃子」「福島ばやし」など古くから遺るものであり後継者育成等は、市と文化財所有者及び管理者及び保存団体（保持者）等の連携し、後世に伝えていく必要がある。 また、文化財の保護・保存だけではなく、公開活用等をすることによって意識高揚・啓発を図ることが必要である。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由	文化財めぐり等の開催時には、参加希望者も多くニーズは高い。郷土の歴史、文化に触れることによって、生涯学習を始めるきっかけをつくる役割を担っている。 また、文化財ボランティアガイドを活用して文化財めぐりの案内（説明）や、郷土資料室の開室等を通して、市民が郷土の歴史、文化を啓発することが図れる。					判断理由	文化財めぐり等の開催時には、参加希望者も多くニーズは高い。郷土の歴史、文化に触れることによって、生涯学習を始めるきっかけをつくる役割を担っている。 また、文化財ボランティアガイドを活用して文化財めぐりの案内（説明）や、郷土資料室の開室等を通して、市民が郷土の歴史、文化を啓発することが図れる。				
	課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 ・市指定有形民俗文化財の「拝島日吉神社祭礼屋台」の3基については、例大祭以外の公開事業（あきしま郷土芸能まつり）等によって劣化が進む恐れがある。 ・文化財ボランティアガイド及び郷土資料室展示説明ボランティアの活用。						今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
平成30年度予算編成における具体的な取組 引続き文化財の保護、保存及び活用、また、市民等への文化財思想の高揚、啓発を図る必要がある。												



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	埋蔵文化財発掘調査事業		部	生涯学習			課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育			担当	小林 光吉					
			係	文化財担当			電話	「内線2259」					
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞		
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						文化財保護法、同施行規則、 昭島市文化財保護条例、同施行規則					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）											
中項目	05 文化財						法令による事業実施義務						
個別計画（年度）											<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり		
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	003	細々目	01	<input type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり		
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市内埋蔵文化財（周知の包蔵地内）の開発事業者等						埋蔵文化財は、国民共有の貴重な歴史遺産であり将来の文化向上・発展の基礎をなすものと位置付けられている。 開発行為（宅地造成）等による埋蔵文化財（遺跡）の破壊行為から埋蔵文化財を保護し、後世に伝えるため記録保存等をする。						
	実施内容						実績・成果						
	開発事業者等から周知の包蔵地の確認、発掘届を受理し、都教育委員会に対して進達する。 調査については、事業者等と調査日等の日程調整、調査指導員の指導の下、発掘調査に伴う民間調査機関を手配し、確認調査を実施する。重要な遺構等が発見された場合は、事業者等と協議し、事業者負担で、本調査（記録保存）を実施、調査報告書等を作成発行する。 国庫、都の補助金事務も伴う。						高度経済成長期に乱開発により埋蔵文化財（遺跡）の破壊が顕著になる中で、開発行為等から埋蔵文化財を保護するために実施された事業で現在でも状況には変化はない。 昭和59（1984）年から、国・都の補助金対象事業として本市でも事前（確認）調査を実施している。現在でもその重要性については変わらない。これまでの発掘調査で、緑町：林ノ上遺跡（史跡：拝島式土器発掘跡）、田中町：史跡浄土古墳、上川原町：上川原遺跡出土の丸底深鉢土器、宮沢町：経塚下遺跡、大神町：大神古墳の出土遺物（市指定有形文化財）、また、当時包蔵地以外の場所から発見された、都指定有形文化財「獣脚付有蓋短頸壺一括」については、全国的に数例しかない文化財になっている。 なお、平成28年度には、西上遺跡において確認調査後、本調査を事業主の協力のもと実施した。						
	コスト	(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞						
	直接事業費	千円	324	700	612	674	・国庫補助金 埋蔵文化財発掘調査補助金 事業費の50%以内 ・都補助金 埋蔵文化財発掘調査補助金 事業費から国庫補助を除いた額の50%以内						
	財源内訳	国庫支出金	千円	162	350	305							337
		都支出金	千円	81	175	153							168
		地方債	千円										
その他特定財源		千円											
一般職員人件費	千円	2,421	1,660	1,596	1,664								
人工数	人	0.30	0.20	0.20	0.20								
再任用職員人件費	千円												
人工数	人												
総事業費	千円	2,745	2,360	2,208	2,338								
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3		
	判断理由	文化財保護法の規定に基づき条例に定められている。					判断理由	文化財保護審議会会長に埋蔵文化財発掘調査指導をお願いし、発掘調査作業等を行っている。 作業については民間調査機関に委託し実施している。 国及び都の補助事業であり、事務処理は、事務局（社会教育課文化財担当）で行っている。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3		
	判断理由	都や市の指定文化財になる遺跡（史跡）、発掘出土品（遺物：土器、石器等）など貴重なものが多い。 宅地開発行為事業等によって失われつつある中で、調査を行い記録を残し、その地域の歴史の解明の資料になる。					判断理由	埋蔵文化財発掘調査指導員謝礼についても発掘（確認・試掘）調査時のみに支出しており、文化財保護審議会委員（会長）ということもあり、その他の調査（立会、事前現場確認等）については謝礼を支払っていない。 本来であれば、専門職員（学芸員：考古専攻）の設置の必要性がある。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 埋蔵文化財の発掘届に対しては、発掘（確認・試掘）調査意外にも立会調査という方法があるが、本市には専門職（学芸員：考古専攻）が設置されていないため職員による立会ができない。専門職（学芸員：考古専攻）の設置が必要。調査（実績）報告書等の刊行等が可能になる。 文化財保護審議会からも専門職（学芸員：考古専攻）の設置について指摘を受けている。						今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
	平成30年度予算編成における具体的な取組 国、都の補助金を活用し、実施している事業。国からは事業費200万円以上の事業にのみ補助を行う旨指摘を受けているが、周知の埋蔵文化財包蔵地内の開発行為等の事業に伴うため、調査件数が確定できない。												

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	市史料調査管理		部	生涯学習			課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育			担当	小林 光吉					
			係	文化財担当			電話	「内線2259」					
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞		
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）											
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）											
中項目	05 文化財										法令による事業実施義務		
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり		
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	004	細々目	01			
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民等から寄贈された生活用具、農具、漁具、養蚕具などの民具調査。 市史史料の刊行事業等。						生活用具、農具、漁具、養蚕具等（民具）の受入れにより、貴重な文化財を記録・収蔵及び保存し公開活用を行う。 市史料等を調査し、監修し報告書等を刊行する。						
	実施内容						実績・成果						
	市民等から寄贈申入れにより、寄贈者宅を訪問、回収作業をし、品目リストを作成する。用途や時代などについて調査し、採寸、写真撮影等のデータを調査カードに記録し整理、収蔵保存する。 調査にあたっては、旧拝島第四小学校内にある空き教室を利用し、調査整理補助作業員2名により行っている。 寄贈された民具類は、旧昭和中学木造校舎、旧拝島第四小学校内空き教室等に分散収蔵保管している。 また、旧昭和中学木造校舎敷地については、都市計画道路の拡幅に伴い収蔵物の調査を実施した。 平成28年度から、再任用職員を近代史調査嘱託職員として採用し、近代史調査を継続している。						生活用具、農具、漁具、養蚕具等（民具）の収集については寄贈の申入れ、重要性、収納能力等によって成立するものであって、その年度によって数字は変動する。 ・収集点数 平成28年度末現在の収集点数 約24,150点 ・整理済点数 平成28年度末現在の整理点数 約24,000点 文化財図書の刊行：昭島近代史調査報告書 ・Ⅰ「【史料】拝島村警防団本部 防空記録」（平成25年度発行） ・Ⅱ「青梅鉄道 昭島関係史料集」（平成26年度発行） ・Ⅲ「明治初期 旧昭島十ヶ村村誌」（平成27年度発行） ・Ⅳ「西川製糸」（平成28年度発行） 文化財図書「エリア別ガイド あきしまの歴史散歩」（平成28年度発行）						
	コスト	(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞						
	直接事業費	千円	1,119	12,311	12,288	15,312	その他特定財源 ・市文化財図書頒布代金（新刊：平成28年度「西川製糸」頒布価格800円有償頒布数212冊） ・行政財産使用料						
	財源内訳	国庫支出金	千円										
		都支出金	千円										
		地方債	千円										
その他特定財源		千円	151	371	152	515							
一般財源		千円	968	11,940	12,136	14,797							
一般職員人件費	千円	807	2,490	2,394	2,496								
人工数	人	0.10	0.30	0.30	0.30								
再任用職員人件費	千円	2,225											
人工数	人	0.50											
総事業費	千円	4,151	14,801	14,682	17,808								
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3		
	判断理由	文化財保護法の規定に基づき、文化財保護条例等に沿って実施している。					判断理由	平成20年度まで、民具調査指導員がいたが、現在、調査整理補助作業員（2名）で整理作業を行っている。 寄贈受入れについては、調査指導員が退任前に作成した基準を基に収納スペース、収納品等を考慮し受領している。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4		
	判断理由	平成28年度末の収集点数は約24,150点あり、種類も多種多様なものが蒐集されている。 生活用具、農具、漁具、養蚕具など、多くの貴重なものを寄贈いただいている。 平成25年度から近代史調査報告書を毎年刊行している。					判断理由	民具等の受入れが行われると調査整理補助作業員により品目リストや調査カードの作成が行われているが、年間勤務日数35日（年間420時間）しかないため、寄贈された民具調査に時間がかかる。 また、通常作業は旧拝島第四小学校内にある民具資料室で行っているが、受入れる民具の規格によっては、搬入する場所が変更するため事務効率は低下する。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題						今後の方向性（右より選択）		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				
	民具調査指導員（専門職：学芸員）が不在のため、寄贈民具等の受入れ判断に苦慮することが多い。 収納も分散して保管しているが、収納スペースも手狭になり今後継続的に収集・整理を行うには専門的知識のある職の設置、収納物の保管場所の一括保管が必要。 今後の新郷土資料施設開設に向けた取り組みが必要。						平成30年度予算編成における具体的な取組 現在の民具収納を一括して、新郷土資料施設に収納するため、調査等が必要。						

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	郷土資料室管理運営		部	生涯学習			課長	伊藤 雅彦				
			課	社会教育			担当	小林 光吉				
			係	文化財担当			電話	「内線2259」				
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞	
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）										
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	05 文化財										法令による事業実施義務	
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
予算科目コード	款	10	項	04	目	03	細目	005	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民及び一般見学者						市内の埋蔵文化財包蔵地から出土（発掘）された土器・石器など、また、市民等から寄贈を受けた生活用具等の民具などを約1,400点を展示、一般に広く公開し、活用を図るとともに郷土「あきしま」の歴史・文化等、文化財保護思想等の高揚・普及・啓発に努める。					
	実施内容						実績・成果					
	郷土資料室は、現在、昭島市昭和町分室（総務部契約管財課所管）の2階の一角を利用し、展示を行っている。展示内容は、昭島市文化財保護審議会委員等の指導により、古代から近代の生活用具等の展示を行っている。 開室日については、週3日（水、土、日：正午～午後4時）、平成28年度の管理業務については、土、日、祝日をシルバー人材センターに委託し、平日の水曜日及び特別開室の平日については、ボランティアを活用し、開室した。 なお、昭和町分室の改修工事のため5月より開室を行った。						平成14（2002）年3月に開室し、平成28年度末までに見学者数は、累計11,296人（平成28年度見学者数696人）の方が訪れている。 また、小学校3、4年生の社会科の授業「昔のくらし」の一環で、見学に訪れている。 平成28年度：7校488人：旧拝四小民具資料室1校100人					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	239	388	387	438					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	239	388	387	438						
一般職員人件費		千円	807	830	798	832						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	1,046	1,218	1,185	1,270						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				4	
	判断理由				文化財は、保護、保存するだけではなく、活用することが求められ重要であり、埋蔵文化財の出土品（土器・石器等）や昔の生活用具等の展示により、市域においての古代からの人の営みがあったことを知ることができる。 また、例年市内の小学校3、4年生の社会科の授業の一環として見学に訪れ、見て、触れて貴重な体験ができる場となっている。		判断理由		現状は管理業務を一部を除いて委託して開室している。 開室日時（水、土、日、正午から午後4時まで）が限定しているため、来場者に不便をきたしている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由				平成13年度（平成14年3月開室）開室以来、10,000人を超える見学者が訪れ、年平均900人程度が訪れている。 市民に限らず市外からも多くの方が訪れる。 なお、施設が2階にあるため（バリアフリー化されていない）車イス利用者等から見学に行けないという苦情がある。		判断理由		現況の郷土資料室は、狭隘で、常設展示スペース以外の企画展示等のスペースが無く、企画展等の開催が不可能である。			
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	現在、委託を中心に開室を行っているが、文化財ボランティアガイド及び郷土資料室展示説明ボランティアを活用し、平成28年度も平日（水曜日等）の開室については対応を行っている。 しかし、ボランティアの方々が高齢な方が多いため、今後も文化財関係ボランティアの養成が不可欠、また、拘束することに対する対価等を考慮することが必要になる。											
今後の方向性		（右より選択）		C		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持						
平成30年度予算編成における具体的な取組												
年間を通して平日の開室を文化財ボランティアガイド及び郷土資料室展示説明ボランティアを活用し行うが、今後のボランティアの養成等を検討する必要がある。 新郷土資料施設開設に向けて、展示、運営等の検討が不可欠。												



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	市立会館管理運営		部	生涯学習部			課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課			担当	吉村 久実					
			係	社会教育係			電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞		
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）										昭島市立会館条例、昭島市立会館条例施行規則、昭島市公共施設予約システムの利用登録に関する規則	
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										法令による事業実施義務	
中項目	01 生涯学習												
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり		
予算科目コード	款	10	項	04	目	04	細目	001	細々目	01			
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民、団体						誰もが気軽に利用できる市立会館を提供することにより、市民の自主的なグループやサークル、団体の活動を推進し、交流を深め、生涯学習の充実を図る。						
	実施内容						実績・成果						
	市民の生活に根ざした自主的、自発的な学習、文化、レクリエーションの機会と活動の場を提供することを目的として、11館設置している。部屋は集会室、休養室、学習室、音楽室、保育室、多目的室などがあり、会合や趣味、軽スポーツ、調理実習、音楽活動、パソコン講習、個人の学習などに利用されているほか、行政資料や市民の活動のパンフレットの利用により市民生活に必要な資料や情報の交換ができる場となっている。28年度は玉川会館で外壁改修工事を、4会館に冷水器設置工事を実施した。						28年度は、11会館合計で、延べ29,784団体、311,494人に、趣味や学習の場として利用されている。また、昭和会館では快適な利用環境の提供のため、改修工事を実施した。						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞					
	直接事業費		千円	275,402	121,981	135,308	123,577	国庫支出金					
	財源内訳	国庫支出金	千円	95,341		19,800	1,980	・防衛施設周辺民生					
		都支出金	千円	54,400	11,000	8,400	9,000	安定施設整備事業補助金					
		地方債	千円					都支出金					
その他特定財源		千円	294	330	9,539	283	・市町村総合交付金						
一般財源		千円	125,367	110,651	97,569	112,314	その他特定財源						
一般職員人件費		千円	28,245	29,050	27,930	22,464	・行政財産使用料						
人工数		人	3.50	3.50	3.50	2.70	・庁内等光熱水費						
再任用職員人件費		千円	445	452	471	1,374	・複写機利用料						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.30	・電話料						
総事業費		千円	304,092	151,483	163,709	147,415	・雇用保険料						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3		
	判断理由				判断理由								
	社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は2番目程度である。				会館の運営については、武蔵野会館のみが武蔵野会館運営協議会で運営している。今後は、他の10館も地域で運営することを検討していくべきである。また、受益者負担については、有料とすることも検討すべきである。								
	③達成度（成果はどの程度あるか）				5		④効率性（効率的に実施できたか）				4		
判断理由				判断理由									
28年度は、11会館合計で、延べ29,784団体、311,494人に、趣味や学習の場として利用されている。利用者の満足度も高いと思われる。なお、昭和会館で改修工事を実施したため、利用者数等が減少している。				昼間の勤務は再雇用職員となっているが、再雇用職員の配置がなかったため臨時職員を活用し、夜間は一般選考の管理員を配置し人件費を抑制している。									
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題												
	○受益者負担の観点から有料化とすることが望ましいが、無料化維持を要望する声が多い。 ○地域住民による運営については、組織づくりが容易ではない。												
	今後の方向性 (右より選択)	E A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持											
平成30年度予算編成における具体的な取組													
30年度は緑会館空調設備等改修工事を予定している。限られた予算でも効率の良い方法を検討したい。													

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	野外活動施設管理		部	生涯学習部		課長	伊藤 雅彦					
			課	社会教育課		担当	吉村 久実					
			係	社会教育係		電話	内線2259					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	O3 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						昭島市富士見高原野外活動施設運営要綱、昭島市北秋川山の家運営要綱				
	大項目	O2 ともにあゆむ（青少年の育成）										
中項目	O1 青少年の健全育成						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）							<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	04	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市内の青少年団体及び社会教育関係団体等						市内の青少年団体及び社会教育関係団体等が野外活動を通して生活体験し、集団生活による仲間との交流により、青少年等の健全な育成を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士見高原キャンプ場</li> <li>北秋川山の家</li> </ul> 市内の青少年団体及び社会教育関係団体等の団体が、野外活動を通じて自然に接し、また集団生活を通して仲間づくりや交流を深める。						富士見高原キャンプ場では、4団体95人、北秋川山の家では、11団体256人、合計15団体351人の市内の青少年団体及び社会教育関係団体等が利用した。 自然環境の中で生活経験、環境学習を体験したことにより、青少年の健全な育成ができ、生涯学習の推進となった。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	1,533	1,621	1,571	1,764					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	1,533	1,621	1,571	1,764						
一般職員人件費		千円	1,614	830	798	832						
人工数		人	0.20	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	3,147	2,451	2,369	2,596						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				判断理由							
	社会教育課に属する任意の事業のうち、当該事業の優先度は11番目程度である。				北秋川山の家は夏場のみの利用のため、奥秋川振興会と宿泊数に応じた賃貸借の契約とし、有効利用をしている。 富士見高原キャンプ場も期間中について、施設管理・点検等を委託し省力化を図っている。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由				判断理由								
大自然とのふれ合いによって心身ともにリラックスすることは大切である。障害のある青少年の団体、リーダー講習会では、毎年利用している。また、昭和会館でキャンプ用具の貸出しを行ない、青少年団体や社会教育関係団体の野外活動に利用している。				利用者は施設利用が無料であり、キャンプに必要なテント・毛布・調理器具などは用意できている。 管理委託により、施設の開設・閉設・点検などの業務が適切に行なわれている。								
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題						今後の方向性 (右より選択)		E A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
	○夏期のみの利用であり、利用希望が土日に集中することから、利用者の増加はあまり見込めない。 ○富士見高原野外活動施設は、キャンプ場、管理棟、宿泊等、トイレ、シャワー室があり、管理棟、宿泊棟は、平成8年の建築で、今後建物の修繕など維持管理の費用の増が見込まれる。 ○平成28年に公共施設総合管理計画が定められ、施設を解体後売却することとなっている。						平成30年度予算編成における具体的な取組					
							予算上は現状維持となるが、富士見高原野外活動施設の売却が可能であれば、代替施設の確保など大きく変化することになる。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	保健体育事務		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
	中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務				
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市のスポーツ振興に係る事務						市民が健康で明るい生活を営めるよう、保健体育事務を円滑に行う。					
	実施内容						実績・成果					
	職員被服貸与、事務用品購入、事業の傷害保険加入等の事務処理						課長1、係長1、職員4、再任用職員（週31時間）1。					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	716	741	563	974	その他特財 ・市民総合賠償補償 保険金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円	175	190	155	190					
		一般財源	千円	541	551	408	784					
	一般職員人件費		千円	6,456	6,640	6,384	6,656					
	人工数		人	0.80	0.80	0.80	0.80					
	再任用職員人件費		千円									
	人工数		人									
	総事業費		千円	7,172	7,381	6,947	7,630					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	市民が健康で明るい生活が営めるよう、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の提供と場の整備を図るために必要。						判断理由	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の提供と場の整備に係る事務処理等は、一元的に行うことが有効であると判断する。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	円滑に事業が実施できている。						判断理由	事務経費については、前例にとらわれず常にコスト意識をもち事務執行にあたっている。			
	課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 小・中学生や社会人を対象とした事業、会議のため、夜間や土日の時間外勤務が多い状況にある。						今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
						平成30年度予算編成における具体的な取組						
						決算状況等を踏まえ、事業費の見直しや削減を検討する。						



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署								
	スポーツ推進委員事務		部	生涯学習部		課長	橋本博司				
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文				
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152				
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞				
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市スポーツ推進委員に関する規則				
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり
事務事業概要	目的										
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	スポーツ推進委員					スポーツ推進委員活動を円滑に進める。					
	実施内容					実績・成果					
	スポーツ推進委員の報酬、旅費、貸与品、スポーツ安全保険加入等の事務処理及び活動支援					スポーツ推進委員は、市や地域主催のスポーツ行事等に協力し、市民のスポーツ振興に寄与している。 （委員 18人）					
	コスト										
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	2,697	3,050	2,777	2,738				
	財源内訳	国庫支出金		千円							
		都支出金		千円							
		地方債		千円							
		その他特定財源		千円							
		一般財源		千円	2,697	3,050	2,777	2,738			
	一般職員人件費		千円	6,456	6,640	6,384	6,656				
	人工数		人	0.80	0.80	0.80	0.80				
再任用職員人件費		千円									
人工数		人									
総事業費		千円	9,153	9,690	9,161	9,394					
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による										
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4	②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	スポーツ基本法第32条の規定に基づき教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員の活動を支援する必要がある。				判断理由	国や東京都、各区市町村等からの情報処理や、委員の活動経費の支出などの事務処理は、現在の「主管課における一元処理」が有効であると判断する。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4	④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	事業等が円滑に実施できている。				判断理由	スポーツ推進委員定例会を毎月開催し、そのなかで情報の共有を図っている。また、上部団体等が開く研修会にも積極的に参加し、資格取得や技術の向上など自己啓発に努めている。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 引き続き、スポーツ推進委員が十分な力を発揮できる環境を整えていく。					今後の方向性 (右より選択)	E	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
						平成30年度予算編成における具体的な取組					
						スポーツ推進委員の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民健康づくり歩け歩け運動事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	004	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市内在住・在勤者とその家族・友人						健康づくりにおける歩くことの重要性を確認し、家族・友人と一緒に歩く野外活動の楽しさを味わう。					
	実施内容						実績・成果					
	年2回の市民健康づくり歩け歩け運動の実施及び定められた距離を踏破した者の認定・記録表彰。						年2回の市民健康づくり歩け歩け運動が実施され、自然に楽しみながら歩くことにより、市民の交流及び健康づくりが図られた。 第126回（5月17日）10km 参加者123人 第127回（11月1日）12km 参加者102人 （表彰） 500km－1人、400km－1人、300km－3人、150km－2人、100km－4人、50km－8人					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	340	521	348	491					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	340	521	348	491					
	一般職員人件費		千円	807	1,660	1,596	1,664					
	人工数		人	0.10	0.20	0.20	0.20					
	再任用職員人件費		千円									
人工数		人										
総事業費		千円	1,147	2,181	1,944	2,155						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由 日常生活で歩くことが少なくなっている。健康づくりにおける歩くことの重要性を確認してもらう。						判断理由 スポーツ推進委員が指導員となって開催。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由 定められた距離を踏破したことによる認定及び記録表彰を行うことにより参加意欲が高められる。						判断理由 年2回の事業を楽しみにしている市民は多い。一定の距離を歩くことによって、市民の健康づくり・体力づくりの高揚を図ることができた。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 ウォーキングを主な活動としている団体等への委託や受益者負担（参加費）導入について引き続き検討する必要がある。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組					
							決算状況等も踏まえ、歩け歩け運動の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	スポーツ・レクリエーションフェスティバル開催事業		部	生涯学習部	課長	橋本博司						
			課	スポーツ振興課	担当	枝吉直文						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	005	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民						スポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起し、体力及び健康増進への意識の高揚を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	毎年体育の日に、こどもから一般市民までを対象とした各種スポーツ体験を実施することにより、広範囲の市民参加による体育の日の健康増進、スポーツ推進を図る事業として実施。昨年度は天候に恵まれ、昭島公園内屋外運動施設と、総合スポーツセンターにて開催。						体育の日（10月10日）に総合スポーツセンターにおいて「市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル2015」を開催。 参加人数（延べ）屋内1,535人、屋外2,007人、合計3,542人。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	27	30	30	30					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	27	30	30	30					
	一般職員人件費		千円	807	1,660	1,596	1,664					
	人工数		人	0.10	0.20	0.20	0.20					
	再任用職員人件費		千円									
人工数		人										
総事業費		千円	834	1,690	1,626	1,694						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	スポーツ・レクリエーションに、だれもが気軽に参加でき、親しむきっかけづくりが必要。				判断理由	体育協会と共催形式を取り、スポーツ・レクリエーションを気軽に体験等できる「まつり」を重視したイベントとなっている。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	毎年「体育の日」に実施することにより、フェスティバルの開催が市民に定着してきており、多くの方に楽しんでいただいている。				判断理由	体育協会、レクリエーション研究会、昭島くじらスポーツクラブ等がボランティアで協力。					
	課題と今後の方向性											
第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 新たな種目の導入も視野に入れたメニューを引き続き検討。				今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持				
				平成30年度予算編成における具体的な取組 従前の規模での開催を予定。新たな種目の導入も検討する。								



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民体育大会等開催事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	006	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民体育大会「種目別大会」：市内在住者、市民体育大会「自治会ブロック別大会」：市民、「シニア軟式野球大会」：市内在住・在勤の60歳以上の者、「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：市民						スポーツ・レクリエーションを通じて市民の交流を深めるとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として開催。また、体力及び健康増進への意識の高揚を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	「種目別大会」：体育協会に委託し25種目を実施。 「自治会ブロック別大会」：自治会連合会に委託し、20のブロックが14会場で開催。 「シニア軟式野球大会」：還暦軟式野球連盟を主体とする実行委員会に委託し、実施。 「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：自治会連合会・スポーツ推進委員で構成する実行委員会に委託し、インドアバタニック大会を実施。						「種目別大会」：参加者 7,357人 「自治会ブロック別大会」：参加者8,968人 「シニア軟式野球大会」：参加者 83人 「自治会ブロック対抗スポーツ大会」：参加ブロック 15ブロック（参加者150人）					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	7,767	7,965	7,676	7,965					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	7,767	7,965	7,676	7,965					
	一般職員人件費		千円	4,842	4,980	4,788	4,992					
	人工数		人	0.60	0.60	0.60	0.60					
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	12,609	12,945	12,464	12,957						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	昭島市におけるスポーツの振興と、市民の健康づくり、市民相互の交流等、その果たす役割は大きく、今後も継続して行く必要がある。					判断理由	それぞれ体育協会、自治会連合会、実行委員会に委託をして実施しているが、運営等も順調である。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由	市民体育大会「自治会ブロック別大会」は、参加者数は前年度とほぼ同数であった。 「自治会ブロック対抗スポーツ大会」は、事前の練習会等にも多くの参加があった。					判断理由	各大会は多くの市民ボランティアに支えられ、相互の交流も図られている。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 各大会の参加者増に向けて今後もPRが必要。						今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		
							平成30年度予算編成における具体的な取組					
							引き続き関係団体と協力し、各種大会を開催する。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	新春駅伝競走大会開催事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	007	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市内在住・在勤・在学の中学生以上の者で編成するチーム（一般男子1部は、市外の中学生以上の者で編成するチームの参加を認める。）						スポーツの振興と走ることによる健康づくり・市民の交流をはかる。					
	実施内容						実績・成果					
	市内周回コースで一般の1部、同2部、女子の部、壮年の部、中学男子の部、中学女子の部の6部門で駅伝競技を行う。1チームは6人（一般男子1部のみ5人）。運営は陸上競技協会へ委託。参加費は、1チーム5,000円。ただし、高校生以下の者で編成するチームは3,000円とし、市内在住在学の中学生のみで編成されるチームは免除とする。						平成29年1月8日開催。参加チーム数241チーム、参加人数1,965人。 記録集計を電子チップ方式にしたことで、より正確で迅速な集計を行うことができた。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	2,611	2,795	2,771	2,677	都支出金 ・スポーツ振興等事業費補助金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円	1,305								
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	1,306	2,795	2,771	2,677					
	一般職員人件費		千円	4,842	5,810	5,586	5,824					
	人工数		人	0.60	0.70	0.70	0.70					
	再任用職員人件費		千円									
人工数		人										
総事業費		千円	7,453	8,605	8,357	8,501						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	新春を飾るスポーツとして市民に定着しており、参加者も多い。また、中学校運動部からの参加も多い。					判断理由	運営については、陸上競技協会に委託。電子チップ導入に伴い、大会運営の効率化・参加者への情報提供（タイム・順位）の迅速化が図られたため、中学生のみのチームを除き、参加費を徴収。看板設置等、一部業務については民間に委託。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	新春を飾るスポーツとして市民に定着しており、沿道での応援も多い。					判断理由	警察、消防、体育協会等の協力を得て中学生から大人まで多くの市民が参加している大会である。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 安全で楽しめる大会を開催するにあたり、交通環境等の変化に今後も対応し、関係機関との迅速な調整が必要。						今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		
	平成30年度予算編成における具体的な取組											
	安全な大会運営を行う中で、引き続き効率化を図りながら事業を行う。											

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	選手・役員大会派遣事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司						
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文						
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152						
	第五次総合基本計画における位置付け							実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ振興法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）											
	中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	008	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり		
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市内在住・在勤・在学者						日頃の練習の成果を発表し、併せて技術を向上させる機会として市代表を派遣						
	実施内容						実績・成果						
	体育協会に委託し、市代表の選手・役員を各種大会に派遣する。 （派遣大会） 都民体育大会、都民生涯スポーツ大会、都民スポレクふれあい大会						都民体育大会：18種目256人 都民生涯スポーツ大会及び都民スポレクふれあい大会：11種目133人 東京都市町村総合大会：13種目164人						
	コスト												
		(単位)	27決算		28当初予算		28決算		29当初予算		備考＜特財名称等＞		
	直接事業費		千円	1,507		1,713		1,485		1,743			
	財源内訳	国庫支出金	千円										
		都支出金	千円										
		地方債	千円										
		その他特定財源	千円										
		一般財源	千円	1,507		1,713		1,485		1,743			
	一般職員人件費		千円	807		830		798					
	人工数		人	0.10		0.10		0.10					
再任用職員人件費		千円											
人工数		人											
総事業費		千円	2,314		2,543		2,283		1,743				
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3		
	判断理由		市を代表する選手・役員を派遣することは、今後も生涯スポーツ活動支援の一環として継続していく必要がある。				判断理由		各大会への選手選抜・派遣は体育協会に委託している。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3		
	判断理由		上部大会への選抜・派遣は、トップアスリートの育成などスポーツの振興に果たす役割は大きい。				判断理由		毎年行われる都民体育大会、市町村総合体育大会、都民生涯スポーツ大会に多くの参加者があり、日頃鍛えた力と技を発揮している。				
	課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 事業委託先（体育協会）と協議し、派遣人員の適正数についての検証は継続的に行う。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
						平成30年度予算編成における具体的な取組							
						選手・役員大会派遣事業の事業活動に必要な予算を適切に計上していく。							



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	スポーツ団体補助事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱					
	中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	009	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	社会教育関係団体						市民の自主的な社会教育活動を補助し、社会教育の発展を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	次の団体に補助金を交付する。 ・体育協会 ・リトルリーグ野球協会 ・少年野球連盟 ・早朝軟式野球連盟 ・ゲートボール協会 ・フットベースボール協会 ・昭島くじらスポーツクラブ補助金						次の団体に補助金を交付した。 ・体育協会（3,000,000円） ・リトルリーグ野球協会（258,000円） ・少年野球連盟（103,000円） ・早朝軟式野球連盟（100,000円） ・ゲートボール協会（300,000円） ・フットベースボール協会（50,000円） ・昭島くじらスポーツクラブ補助金（1,500,000円）					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	3,802	5,381	5,372	5,381					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	3,802	5,381	5,372	5,381					
	一般職員人件費		千円	807	830	798	832					
	人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
	再任用職員人件費		千円									
人工数		人										
総事業費		千円	4,609	6,211	6,170	6,213						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	市民の自主的な社会教育活動を補助し、市の社会教育の発展を図る。					判断理由	昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、補助金を支出。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	各団体とも、大会を開催するなど有効に活用されている。					判断理由	市の体育・スポーツ団体の発展を図るための補助事業であり、各団体とも毎年総会を開き、予算・決算及び事業計画を報告し効率的な運営に努めている。				
	課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 団体の総収入額に占める割合等を慎重に検討し、引き続き適正な補助に努める。					今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		
					平成30年度予算編成における具体的な取組							
					他市の状況等も参考にしながら団体に対する補助金の見直しは継続的に検討していく。							

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	運動施設及び学校開放事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）						昭島市立学校施設設備使用条例				
中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	010	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民						スポーツ・レクリエーション活動の場として施設を開放					
	実施内容						実績・成果					
	スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場：5月～10月毎週水・金曜日）（昭和公園テニスコート：5月～9月毎週水・金・第3日曜日） 小学校プール開放：拝島第1小（拝島公園プール廃止に伴い代替措置として実施） 学校跡地運動施設開放：旧拝島第4小・旧つつじが丘南小跡地を暫定利用 校庭夜間照明施設開放（4月～11月）：つつじが丘小・旧拝島第4小・昭和中（校庭・テニスコート）						スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）：利用人数716人 小学校プール開放：利用人数266人 学校跡地運動施設開放：利用人数26,266人 校庭夜間照明施設開放：利用人数5,499人					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	4,506	6,297	6,138	4,421					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	4,506	6,297	6,138	4,421						
一般職員人件費		千円	807	830	798	832						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	5,313	7,127	6,936	5,253						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）は、個人や家族連れの方が事前予約にこだわらず、気軽にスポーツ施設を利用することができる。 小学校プール開放は、拝島公園プールの廃止に伴い、体力向上、健康増進の場として拝島第一小学校プールを開放し、児童の健全な育成を図る。 校庭夜間照明施設開放は、社会人等のスポーツ参加への機会確保・拡大を図っている。		判断理由		スポーツ・レクリエーション施設開放（昭和公園陸上競技場・テニスコート）は、開放時間中、硬式テニス・ソフトテニス・陸上競技の各協会に管理指導を依頼（有償）。 小学校プール開放は、業者に委託。 校庭夜間照明施設開放の受付は、総合スポーツセンター受付業務に含めて民間業者へ委託。利用者からは夜間照明施設利用料として校庭1,300円（昭和中校庭全面利用は2,600円）、テニスコート800円を負担してもらっている。			
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				5	
	判断理由				各事業とも利用者は多い。		判断理由		校庭夜間照明施設開放は、学校施設等を使うため低コストで子どもから大人まで多くの市民にスポーツを楽しんで頂いている。			
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題						今後の方向性		E			
	スポーツ・レクリエーション施設開放事業および校庭夜間照明設備開放について、民間事業者等への委託を引き続き検討。 学校跡地運動施設開放については、公共施設管理計画に基づき、暫定利用を行う。 拝島第一小学校プール解放については、利用状況を勘案し、継続について検討を行う。						平成30年度予算編成における具体的な取組		利用状況等も勘案しながら必要な予算計上をしていく。拝島公園プール廃止に伴い拝島第一小学校で暫定的に開放プールを実施する。			

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	親子ふれあいスポーツデー開催事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ基本法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）					
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	011	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市内の小学生とその保護者						親子がいっしょにスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通じてふれあいを深める機会を提供する。					
	実施内容						実績・成果					
	市内の小学校を対象に年3回、土曜日の午前中に校庭及び体育館を利用して「親子ふれあいスポーツデー」を開催。						第1回（東小） 参加者 68人 第2回（中神小） 参加者 114人 第3回（武蔵野小） 参加者 74人					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	52	54	53	54					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円									
		一般財源	千円	52	54	53	54					
	一般職員人件費		千円	807	830	798	832					
	人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10					
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	859	884	851	886						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	親子がスポーツを一緒にすることを通じて交流を一層深める機会を提供。				判断理由	スポーツ推進委員、レクリエーション研究会、グラウンドゴルフ協会の協力を得て実施。各回、指導員3人（@1,250円×4時間×3人）を依頼。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				2		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	余暇の過ごし方が多様化してきており、親子でいっしょに来場される参加者は少ない。				判断理由	スポーツ推進委員等の協力のもと小学校の校庭・体育館を使い、土曜日の午前中に親子でスポーツを楽しんでいるが、週休2日制の定着などにより親子の参加者が減少傾向にある。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 平成29年度まで開催されていたチャレンジデー事業が、(仮称)スポーツ週間に内容変更されることに伴い、(仮称)スポーツ週間との事業統合を視野に検討を行う。						今後の方向性 (右より選択)		A		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組					
							人気種目を追加するなど、参加者増に努める。					



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	チャレンジデー開催事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市立学校施設設備使用条例					
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	012	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民					市民一人ひとりが、それぞれに応じた運動やスポーツ等を日常的に行う。						
	実施内容					実績・成果						
	毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に参加。 （内容）人口規模のほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して運動やスポーツ等の身体活動（運動）を行った住民の「参加率」を競い合う。体育協会や健康づくり推進協議会、商工会、自治会連合会などにより昭島市チャレンジデー実行委員会を構成し、事業を委託。					チャレンジデー開催日：5月25日（水） 参加人数：96,047人 参加率：85.1% 対戦相手：大阪府柏原市（72.8%）						
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	139	220	202	220					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	139	220	202	220						
一般職員人件費		千円	2,421	2,490	2,394	2,496						
人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.30						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	2,560	2,710	2,596	2,716						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	スポーツ等の力で「元気都市あきしま」を目指す。				判断理由	体育協会をはじめ、広範な団体・事業所の連携により事業を遂行できた。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				5		④効率性（効率的に実施できたか）				5	
	判断理由	チャレンジデーをきっかけに、日常的にスポーツ等を行う団体等も増え、市民にも定着してきている。				判断理由	PRや参加の呼びかけが効率的にできた。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	平成29年度チャレンジデー実行委員会の協議により、平成29年度をもってチャレンジデー終了し、平成30年度より新たに（仮称）スポーツ週間を開催することとなった。											
	今後の方向性（右より選択）	C		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持								
平成30年度予算編成における具体的な取組												
平成29年度チャレンジデー実行委員会の協議により、平成30年度より新たに（仮称）スポーツ週間を開催することとなったため、既存のプログラムを精査し新たな事業を加える中で内容の検討を行う。												

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	スポーツ力向上事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市立学校施設設備使用条例					
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）						
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	013	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市内在住・在勤・在学で日常的にスポーツを行っている市民					昭島からアスリート選手を輩出する						
	実施内容					実績・成果						
	コーチ等を招へいし技術力向上に資する練習会等を体育協会に委託し実施。 ・ソフトテニス競技力向上強化練習会・講習会 ・バスケットボール競技力向上指導者連絡会 ・バドミントン競技力向上強化練習会 ・昭島市選抜招待少年サッカー大会 ・ビーチボール競技における技術力向上強化練習会 ・ターゲット・バードゴルフ競技力向上強化練習会 ・インディアカ競技力向上初心者審判講習会					・ソフトテニス競技力向上強化練習会・講習会（参加者数：29人） ・バスケットボール競技力向上指導者連絡会（参加者数：31人） ・バドミントン競技力向上強化練習会（参加者数：54人） ・昭島市選抜招待少年サッカー大会（参加者数：160人） ・ビーチボール競技における技術力向上強化練習会（参加者数：91人） ・ターゲット・バードゴルフ競技力向上強化練習会（参加者数：45人） ・インディアカ競技力向上初心者審判講習会（参加者数：44人）						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	988	1,000	865	1,000					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	988	1,000	865	1,000						
一般職員人件費		千円	807	830	798	832						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	1,795	1,830	1,663	1,832						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けて、競技者の技術力向上を図る施策は必要。					判断理由	日常的にスポーツを行っている市民の競技力向上を図る事業であるため、競技スポーツ活動を中心に行っている体育協会に運営を委託することは妥当と考える。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	選手の競技力を向上させる強化練習会を開催するとともに、指導者の資質向上のための指導者連絡会も行った。					判断理由	該当する選手の情報等を豊富に所有している体育協会に運営を委託することでスムーズな運営を行うことができた。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けて、昭島市からアスリート選手を輩出するため、競技者の技術力向上を図るとともに指導者の資質向上を図る必要がある。					今後の方向性（右より選択）	A		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
						平成30年度予算編成における具体的な取組						
					競技力・技術力の向上を継続的に行う。							

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署																																																																																
	中学生スポーツ交流事業		部	生涯学習部		課長	橋本博司																																																																												
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文																																																																												
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152																																																																												
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞																																																																												
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ基本法																																																																												
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）																																																																																	
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務																																																																													
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり）																																																																													
予算科目コード	款	10	項	05	目	01	細目	014	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）																																																																								
事務事業概要	目的																																																																																		
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞																																																																												
	市内在住在学の中学生						昭島市の中学生を岩泉町で開催されるスポーツ大会に派遣し、岩泉町の中学生とスポーツを通して、心のつながった真の交流を図る。																																																																												
	実施内容						実績・成果																																																																												
	8月に岩手県岩泉町で行われる「龍泉洞リレーマラソン大会」に中学生で構成するチームを派遣する。						参加大会名：第4回龍泉洞リレーマラソン大会 期間：平成28年8月27日～28日 派遣選手：中学生男女混成チーム （男子福島中学校サッカー部5名） （女子福島中学校バスケットボール部5名） 成績：中学生の部優勝 総合第6位																																																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コスト</th> <th>（単位）</th> <th>27決算</th> <th>28当初予算</th> <th>28決算</th> <th>29当初予算</th> <th>備考＜特財名称等＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接事業費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>900</td> <td>679</td> <td>900</td> <td rowspan="10"></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td>900</td> <td>679</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>一般職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>1,660</td> <td>1,596</td> <td>1,664</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>2,560</td> <td>2,275</td> <td>2,564</td> </tr> </tbody> </table>												コスト	（単位）	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞	直接事業費	千円		900	679	900		財源内訳	国庫支出金	千円				都支出金	千円				地方債	千円				その他特定財源	千円				一般財源	千円		900	679	900	一般職員人件費	千円		1,660	1,596	1,664	人工数	人		0.20	0.20	0.20	再任用職員人件費	千円					人工数	人					総事業費	千円		2,560	2,275	2,564
	コスト	（単位）	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞																																																																												
	直接事業費	千円		900	679	900																																																																													
	財源内訳	国庫支出金	千円																																																																																
		都支出金	千円																																																																																
		地方債	千円																																																																																
		その他特定財源	千円																																																																																
		一般財源	千円		900	679		900																																																																											
	一般職員人件費	千円		1,660	1,596	1,664																																																																													
	人工数	人		0.20	0.20	0.20																																																																													
再任用職員人件費	千円																																																																																		
人工数	人																																																																																		
総事業費	千円		2,560	2,275	2,564																																																																														
個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による																																																																																			
事務事業評価	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3																																																																								
	判断理由				中学生がスポーツを通じて友好都市の町民と交流を深める機会の提供。				判断理由				中学校長会及び陸上競技協会を運営委員会の委員に迎え、意見を聞きながら事業を実施。																																																																						
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4																																																																								
	判断理由				大会に参加することによりスポーツを通じて、地元中学生と交流を図るとともに、龍泉洞や東日本大震災の被災地への訪問など友好都市について見識を深めたことは有意義であった。				判断理由				中学校長会及び陸上競技協会の協力を得たことにより、出場選手の選抜や期間中の先生の引率など効率よく事業を行えた。																																																																						
	課題と今後の方向性																																																																																		
第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題						今後の方向性																																																																													
受け入れ先である岩泉町から、平成28年の台風被害により、施設復旧に数年かかるとの回答を得ているため、平成29年度の事業は行えなかった。平成30年度についても龍泉洞リレーマラソンへの参加は困難性があり、抜本的な見直しが必要である。						C A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持																																																																													
平成30年度予算編成における具体的な取組						平成28年の台風被害により、平成29年度龍泉洞リレーマラソン大会への参加ができず、平成30年度についても龍泉洞リレーマラソンへの参加は困難性があり、抜本的な見直しが必要である。																																																																													



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	総合スポーツセンター管理運営		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ振興法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市総合スポーツセンター条例					
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）					
予算科目コード	款	10	項	05	目	02	細目	001	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民・団体等					市民の公共スポーツ施設の拠点として充実したサービスを提供						
	実施内容					実績・成果						
	総合スポーツセンターの管理・運営等を民間に委託し、官民一体となって充実したサービスを提供していく。また、各種スポーツ教室についても民間に委託し、効果的な運営を行う。 総合スポーツセンター：体育室、軽体操室、柔道場、剣道場、弓道場、温水プール、トレーニングルーム、研修室 スポーツ教室：「健康さわやか教室」「中高年のためのアクアエクササイズ」等21事業					団体利用 ・体育室（2ヶ所）：55,185人 ・軽体操室（2ヶ所）：41,005人 ・柔剣道場：20,929人 ・弓道場：9,065人 ・温水プール：16,726人 個人利用 ・軽体操室（2ヶ所）：1,208人 ・柔剣道場：1,979人 ・弓道場：1,652人 ・温水プール：46,934人 ・トレーニングルーム：78,504人						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	189,380	217,589	197,640	211,453	都支出金				
	財源内訳	国庫支出金	千円					・市町村総合交付金				
		都支出金	千円		3,000	5,000	18,000	・スポーツ振興等事業補助金				
		地方債	千円					その他特定財源				
その他特定財源		千円	70,053	70,341	70,254	70,141	・総合スポーツセンター使用料					
一般職員人件費	千円	1,614	2,490	2,394	2,496	・庁舎等光熱水費						
人工数	人	0.20	0.30	0.30	0.30	・行政財産使用料						
再任用職員人件費	千円	4,450	3,617	3,771	3,664	・各種講習会受講料						
人工数	人	1.00	0.80	0.80	0.80	・複写機利用料						
総事業費	千円	195,444	223,696	203,805	217,613	・電話料						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	廉価で通年利用できる温水プールやトレーニングジム、屋内競技用の体育施設は、市民の健康づくりのために必要。					判断理由	総合スポーツセンターの管理・運営及び各種スポーツ教室の開催は民間に委託し、官民一体となって充実したサービスを提供している。 施設（駐車場含む）使用料は市民、他市民とも同額。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	市内には同規模以上の体育施設は無く、市内の公共スポーツ施設の拠点となって多くの市民に利用されている					判断理由	体育室、温水プール、トレーニング室等を備えた体育館であり、一定の維持管理費はかかるが省エネを継続。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 平成26年度に実施した施設老朽化調査により判明した老朽箇所について、今後「昭島市公共施設等総合管理計画」に反映させ計画的に修繕を行うことにより、効率の良い施設管理・運営を行う。 また、現在施設利用料は、市民、他市市民とも同額であるが、市内料金、市外料金等の設定について、施設の改修状況を勘案しながら、引き続き検討していく。						今後の方向性 (右より選択)	E	A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
	平成30年度予算編成における具体的な取組 「昭島市公共施設等総合管理計画」に基づき計画的に施設管理を行うとともに、個別施設計画の策定を検討し、効率の良い施設管理・運営の検討を行う。											

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	みほり体育館管理運営		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ振興法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					昭島市みほり体育館条例					
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）					
予算科目コード	款	10	項	05	目	02	細目	002	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民・団体等					市民のふれあい、スポーツ・レクリエーションの場として設置						
	実施内容					実績・成果						
	体育室（420㎡）と研修室（66㎡）の貸出及び管理。9時～21時開館。毎月曜日休館。昼間は再任用職員又は臨時職員、夜間は管理員又は臨時管理員がそれぞれローテーションにより1人ずつ勤務。当該体育館施設は、都が都営住宅内に建設したものを使用許可（無償）を受け運営。					団体利用 ・体育室：967件（14402人） ・研修室：399件（3,503人） 個人利用 ・体育室：2,629人						
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	15,551	16,930	14,227	6,960	都支出金 ・市町村総合交付金 その他特定財源 ・みほり体育館使用料 ・雇用保険料 ・庁舎等光熱水費				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円		7,000	6,300						
地方債		千円										
その他特定財源		千円	2,303	2,245	2,216	2,317						
一般財源		千円	13,248	7,685	5,711	4,643						
一般職員人件費		千円	1,614	2,490	2,394	2,496						
人工数		人	0.20	0.30	0.30	0.30						
再任用職員人件費		千円	4,450		4,714	4,580						
人工数		人	1.00		1.00	1.00						
総事業費		千円	21,615	19,420	21,335	14,036						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	地域の体育館として定着しており、継続して利用する市民もいる。本市におけるスポーツ振興の拠点のひとつとして存続する必要がある。					判断理由	施設の管理は、昼間は再任用職員又は臨時職員、夜間は管理員又は臨時管理員がそれぞれローテーションにより1人ずつ勤務している。施設利用料は市民、他市民とも同額。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
	判断理由	小規模ながら、市の西部にある体育施設として市民のスポーツ・レクリエーション活動に利用されている。					判断理由	市民の健康づくり、体力づくりに寄与している施設で一定の維持管理費はかかるが省エネに努めている。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 「昭島市公共施設等総合管理計画」に基づき計画的に施設管理を行うとともに、効率の良い施設管理・運営を行う。 また、現在施設利用料は、市民、他市市民とも同額であるが、市内料金、市外料金等の設定について、施設の改修状況を勘案しながら、引き続き検討していく。					今後の方向性 (右より選択)	E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
						平成30年度予算編成における具体的な取組 必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。						

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民プール管理運営		部	生涯学習部	課長	橋本博司						
			課	スポーツ振興課	担当	枝吉直文						
			係	スポーツ振興係	電話	544-4152						
	第五次総合基本計画における位置付け					実施根拠＜法令、要綱等＞						
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					スポーツ振興法					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）					<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり						
予算科目コード	款	10	項	05	目	03	細目	001	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民等						市民の夏季における健康づくりや遊びの場として開設					
	実施内容						実績・成果					
	7月16日（土）～8月31日（水）までの47日間（うち施設点検休業日2日、天候等中止日2日）開設。運営は民間会社に委託。駐車場あり（東京都下水道局用地を無償借用）						利用料金					
	プールの種類）流水プール、25mプール、児童用プール、幼児用プール、スライダープール						・大人2時間 200円 ・小人2時間 50円 ・ロッカー代 50円					
							利用者数					
							・大人 7,704人 ・小人 14,240人					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	20,819	23,351	20,646	23,040	その他特財 ・市民プール使用料				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円	4,114	5,058	3,077	4,464					
一般財源		千円	16,705	18,293	17,569	18,576						
一般職員人件費		千円	807	830	798	832						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	21,626	24,181	21,444	23,872						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	市民の夏季における健康づくりや遊びの場として、市営プールを開設。					判断理由	運営は民間会社に委託をし、経費の削減に努めている。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				2	
	判断理由	夏期における市民のレクリエーションの場として定着し、多くの市民が来場される。					判断理由	夏季における市民の健康づくり・体力づくりに寄与している施設であるが、利用者の安全を確保するため毎年多額な維持管理経費を必要とする。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	「行財政改革推進会議」において「廃止を検討すべき」との提言があり、「昭島市公共施設等総合管理計画」でも中期的目標期間内に「廃止後、解体」を今後検討すべき課題となっていることから、縮小・廃止に向け検討を行う。											
	今後の方向性 (右より選択)	D		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持								
平成30年度予算編成における具体的な取組												
必要な修繕等を行うとともに、事業費の削減に努める。												



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	運動施設管理運営		部	生涯学習部		課長	橋本博司					
			課	スポーツ振興課		担当	枝吉直文					
			係	スポーツ振興係		電話	544-4152					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						スポーツ振興法				
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	04 スポーツ・レクリエーション						法令による事業実施義務					
個別計画（年度）	昭島市スポーツ推進計画（平成28年度～平成33年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	05	目	03	細目	002	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民・団体等						市民の健康増進や体力づくり、スポーツを普及する場として提供					
	実施内容						実績・成果					
	市内の屋外運動施設の良好な維持管理作業を民間に委託して実施。 （屋外運動施設） 昭和公園：市民球場、陸上競技（サッカー）場、テニスコート（7面） 大神公園：サッカー場、野球場（4面） くじら運動公園：少年サッカー場（2面）、少年野球場（4面）、テニスコート（5面）、ソフトボール場（4面） 美の宮公園：ソフトボール場						（利用実績） 昭和公園：市民球場（489件）、陸上競技場（25件）、サッカー場（315件）、テニスコート（4,863件）、駐車場利用台数：86,818台 大神公園：サッカー場（705件）、野球場（2,649件） くじら運動公園：少年サッカー場（1,473件）、野球場（1,870件）、テニスコート（4,514件）、ソフトボール場（2,203件） 美の宮公園：ソフトボール場（281件）					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	48,531	53,900	51,997	47,843	その他特定財源 ・昭和公園運動施設等使用料 ・庁舎等光熱水費 ・電話料 ・一般寄附金(H28)				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他特定財源	千円	18,575	20,230	20,435	20,092					
		一般財源	千円	29,956	33,670	31,562	27,751					
	一般職員人件費		千円	9,684	9,960	7,980	8,320					
	人工数		人	1.20	1.20	1.00	1.00					
	再任用職員人件費		千円									
人工数		人										
総事業費		千円	58,215	63,860	59,977	56,163						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				市民の健康づくりのためにも、整備された運動施設は必要。		判断理由				受付及び維持管理作業は民間会社に委託している。大神公園及びくじら運動公園は、国から河川敷を無償借用し、運動施設に整備、利用している。昭和公園施設（駐車場含む）の利用は有料。大神公園・くじら運動公園・美の宮公園施設（駐車場含む）の利用は無料。	
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由				年間を通じて利用者は多く、市民の健康づくりに寄与している。		判断理由				市民球場や陸上競技場等の運動施設は土日を中心に多くの市民の利用がある。施設整備も一定の維持管理コストで適切な対応を図っている。	
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 利用者の安全・安心のためにも計画的な修繕等を継続する必要がある。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組					
							安全・安心のため必要な修繕を行う。					

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	市民図書館協議会事務		部	生涯学習			課長	石川 千尋					
			課	市民図書館			担当	井上 直樹					
			係	整理係			電話	042-543-1523					
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞		
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）						図書館法 昭島市市民図書館協議会 条例					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）											
中項目	02 図書館活動						法令による事業実施義務						
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）		
予算科目コード	款	10	項	04	目	05	細目	002	細々目	01			
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民、図書館関係団体、教育機関、図書館職員などに対し、図書館の健全な発達を促進することを目的とする。						図書館運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、図書館長に対して意見を述べる。						
	実施内容						実績・成果						
	○図書館協議会の開催 ○子ども読書活動推進計画評価等会議の開催 ○図書館との共催事業「市民参加による先進図書館見学ツアー」の実施						○図書館協議会を年4回開催し、昭島市民図書館基本方針・基本計画の策定等、（仮称）教育福祉総合センターについてならびに事務報告の承認他を行った。 ○今後の昭島市における子ども読書活動推進計画の実施や図書館運営に活かすため、先進図書館（江戸川区篠崎図書館 篠崎子ども図書館）の見学を行った。						
	コスト												
			(単位)	27決算		28当初予算		28決算		29当初予算		備考＜特財名称等＞	
	直接事業費		千円	279		400		370		300			
	財源内訳	国庫支出金	千円										
		都支出金	千円										
地方債		千円											
その他特定財源		千円											
一般財源		千円	279		400		370		300				
一般職員人件費		千円	807		1,660		1,596		832				
人工数		人	0.10		0.20		0.20		0.10				
再任用職員人件費		千円	0		0		0		0				
人工数		人	0.00		0.00		0.00		0.00				
総事業費		千円	1,086		2,060		1,966		1,132				
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				2		
	判断理由	図書館運営に関して、図書館長に対して意見を述べる機関であり、必要度は高い。					判断理由	図書館法の趣旨に基づき活動がなされている。図書館法第14条に基づき設置、昭島市市民図書館協議会条例第3条に基づき公募委員2名を含めて委員を委嘱しており、実施方法は適切である。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3		
	判断理由	図書館運営にあたって的確な助言を得ている。					判断理由	28年度は第三次子ども読書活動推進計画の策定がなされたので子ども読書活動推進計画評価等会議を併催しないで、4回の会議のなかで図書館基本方針・基本計画や（仮称）教育福祉総合センターのことなど市民図書館の将来にわたることを効率的に議題することができた。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 図書館活動の充実のための点検及び評価機関として機能してきたし、今後の図書館政策のなかでより一層その役割と意義は重要となる。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		
							平成30年度予算編成における具体的な取組						
							引き続き、市民図書館協議会の有効な活用を図るため、委員報酬を予算計上する。						

# 平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	図書館管理運営		部	生涯学習			課長	石川 千尋				
			課	市民図書館			担当	井上 直樹				
			係	整理係			電話	042-543-1523				
	第五次総合基本計画における位置付け										実施根拠＜法令、要綱等＞	
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）										図書館法、昭島市市民図書館設置条例、昭島市市民図書館運営規則、子ども読書活動推進計画
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）										
中項目	02 図書館活動										法令による事業実施義務	
個別計画（年度）											<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり	
予算科目コード	款	10	項	04	目	05	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input checked="" type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民。						市民生活に欠かすことのできない教育文化施設として、また、生涯にわたる自主的学習の場として、市民に親しまれ、市民の暮らしに役立つ図書館運営を行う。具体的な目標として、市民一人当たりの貸出冊数を6.5冊以上。登録率の25%以上の向上を目指す。					
	実施内容						実績・成果					
	○図書資料閲覧貸出業務 ○施設用備品（図書購入、中神駅図書回収ポスト） ○子ども読書活動推進事業（小学校新一年生における貸出券の作成、おはなし会の実施、学校等への派遣事業。講演会・講習会の開催、中学高校生の読書フォーラム2017、司書教諭等研修会） ○オンラインデータベースの導入及び国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの参加 ○録音図書作成及び貸出などの障害者サービスの実施及び音訳者講習会の実施 ○高齢者対象事業の実施 ○施設維持管理（光熱費、耐震補強工事 他） ○施設設備等保守委託12項目（清掃委託、図書等装備委託 他） ○業務運営（図書館システム、データベース使用 他）						登録者数は25,474人に達し、うち新小学1年生を対象に663人に交付した。貸出冊数は587,457冊であった。市民リクエストにも対応した積極的な蔵書購入を図り蔵書数は358,667冊となった。子ども読書活動推進事業、高齢者対象事業、障害者サービス事業はいつも多くの利用があった。子ども読書活動に関する新たな試みとして学校側の要望による司書教諭等研修会や高校生向け図書館利用啓発を実施した。さらに、耐震補強工事の竣工により利用者に安心、安全な施設の提供を実現した。					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	133,282	141,196	133,214	129,659	都支出金 ・障害者施策推進区市町村包括補助金 その他特定財源 ・行政財産使用料 ・複写機利用料 ・雇用保険料 ・ホームページ等広告掲載料 ・市民総合賠償補償保険金 ・公共施設整備資金積立基金繰入金(H28)				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円	2,213	586	325	586					
		地方債	千円									
その他特定財源		千円	239	12,511	9,520	325						
一般財源		千円	130,830	128,099	123,369	128,748						
一般職員人件費		千円	71,823	81,340	78,204	82,368						
人工数		人	8.90	9.80	9.80	9.90						
再任用職員人件費		千円	26,700	27,126	28,284	20,152						
人工数		人	6.00	6.00	6.00	4.40						
総事業費		千円	231,805	249,662	239,702	232,179						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由 小学校1年生に貸出券を新規作成し交付することで登録率と貸出率の向上につながっていく。おはなし会や読み聞かせ講座や講演会の実施は未就学児や乳幼児や保護者に対して、図書への親しみを持ってもらえる。小学校でのブックトークも同様。読書フォーラムの開催は、中高生・高校生の読書離れに歯止めをかける役割もある。新規図書を購入していくことは、最新の情報を発信する知の拠点としては必要なことである。				判断理由 図書館本来の業務を遂行しつつ、月1回以上の「おはなし会」と子ども読書活動推進事業としての講演会や講習会を2カ月に一回の割合で実施出来ている。現状を維持し講演内容等の充実と向上を図っていくことに努めている。さらに、ボランティアを育成し向上させるため、ボランティア育成（向上）講座を実施している。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由 貸出券の新規作成事業は、毎年、申込みが多く順調である。本館・分館などで開催するおはなし会は、ボランティアの協力で実施出来ている。子ども向けの講演会や講習会の参加希望者やリピーターは多い。新規図書を購入することで市民からのリクエストにも対応している。				判断理由 実施数と内容については、毎年、大きな変化はないので実質的なコストは変わらない。							
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 一人当たりの貸出冊数は目標の6.5冊に対し、28年度は耐震補強工事に伴う一部休館の影響で5.4冊であったが、それ以前は6.3冊で推移している。貸出冊数や登録率の増加に加えて、市民ニーズに応えるため所蔵する図書を増やし、快適な図書館サービスを提供することや、子ども読書活動を高めるための施策の検討、新たな図書館機能に向けての円滑な移行が今後の課題である。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
	平成30年度予算編成における具体的な取組 ○第三次昭島市子ども読書活動推進計画の推進 ○図書資料購入と適切な整理 ○高齢者対象事業の実施 ○学校と連携し、学校図書館の充実や司書教諭等研修会の実施											



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署										
	市民会館管理運営		部	生涯学習部			課長	並木 映子					
			課	市民会館・公民館			担当	原田 和子					
			係	管理係			電話	内線2277					
	第五次総合基本計画における位置付け							実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あさしま（教育・文化・スポーツの充実）					昭島市民会館条例、昭島市民会館条例施行規則						
	大項目	03 「あさしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					法令による事業実施義務						
中項目	03 文化・芸術												
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）							
予算科目コード	款	10	項	04	目	06	細目	002	細々目	01			
事務事業概要	目的												
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民、市民会館利用団体（社会教育団体、文化事業協会、社会福祉法人、学校、劇団、会社・事業所等）						市民の文化活動の場であり、芸術鑑賞の機会を提供し、芸術を創造・発信する場としての市民会館の機能を維持するため。						
	実施内容						実績・成果						
	○施設貸出業務 ○施設維持管理（施設消耗品、施設光熱水費、施設修繕、樹木剪定等） ○施設設備等保守委託17項目（舞台等設備管理業務委託、清掃委託、空調設備保守委託等） ○施設用備品（大ホール用客席座、大ホール用磁気ループシステム専用受信機）						平成28年度市民会館の利用は171日で、社会教育団体、文化事業協会、学校、劇団等の団体に利用され、利用率は64%、鑑賞者数は延べ72,920人であった。吹奏楽・オーケストラ、舞踊、合唱など、幅広い催物で利用された。 また、市民会館前庭のタイルの剥離が著しい箇所（昭島市の地図部分）について、利用者の安全性を確保するため、改修を実施した。						
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞					
	直接事業費		千円	100,004	122,592	110,452	243,188	国庫支出金					
	財源内訳	国庫支出金	千円				70,000	・定防衛施設周辺整備調整交付金					
		都支出金	千円		13,000	10,400	52,000	都支出金					
		地方債	千円					・市町村総合交付金					
その他特定財源		千円	33,835	39,000	35,618	45,158	その他特定財源						
一般財源	千円	66,169	70,592	64,434	76,030	・行政財産使用料 ・市民会館使用料 ・市民会館・公民館駐車場使用料							
一般職員人件費	千円	32,280	33,200	31,122	24,128	・特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金繰入金							
人工数	人	4.00	4.00	3.90	2.90	・庁舎等光熱水費							
再任用職員人件費	千円	7,120	4,521	3,771	8,244	・雇用保険料							
人工数	人	1.60	1.00	0.80	1.80	・施設命名権収入							
総事業費	千円	139,404	160,313	145,345	275,560								
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による												
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				5		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				1		
	判断理由	施設の維持管理、運営に要する経費等であるため、当該事業の優先度は高い。					判断理由	市民会館の安全性を確保するため、多くの委託項目の中で設備等保守点検委託を実施している。また、施設・設備の老朽箇所の修繕、備品類の更新等を行い、施設の維持管理に努めている。					
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				4		
	判断理由	経年劣化の激しかった前庭のタイルの剥離箇所について貼り替え工事を行ったり、陶芸窯の買い替えをするなど、利用者の安全性の確保や施設維持管理他、利用者の要望に応えることができた。					判断理由	施設維持管理、保守委託、施設備品の更新等、限られた経費の中で効率的・計画的に実施している。平成26年度から3年間のネーミングライツ制度導入により歳入確保を図る。					
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 経費節減を図る中で、施設の安全性を確保するため、経年劣化による設備・機器の修繕等を実施する必要がある。 他の管理運営方法等については、公民館施設と併用のため、課題等検討を要する。						今後の方向性 (右より選択)	B		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持			
							平成30年度予算編成における具体的な取組 外壁改修工事を平成29年12月から平成30年6月まで実施する。継続費で予算化されおり、防衛9条の基金を活用する。 また平成29年に採択された冷温水発生機等部品交換、ピアノのオーバーホールを実施する。						

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署																																																																														
	文化事業協会補助事業		部	生涯学習部		課長	並木 映子																																																																										
			課	市民会館・公民館		担当	原田 和子																																																																										
			係	管理係		電話	内線2277																																																																										
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞																																																																										
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					昭島市民会館文化事業協会補助金交付要綱、文化芸術振興基本法、昭島市民会館条例、昭島市民会館条例施行規則、昭島市文化芸術振興基本条例																																																																										
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					法令による事業実施義務																																																																										
中項目	03 文化・芸術																																																																																
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）																																																																											
予算科目コード	款	10	項	04	目	06	細目	003	細々目	01																																																																							
事務事業概要	目的																																																																																
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞																																																																											
	市民					市民を対象に、身近なところで優れた芸術文化に触れ、気軽に鑑賞できるような多様な芸術鑑賞の機会を提供する。																																																																											
	実施内容					実績・成果																																																																											
	○市民会館条例施行規則第16条の規定に基づき指定された団体である、昭島市民会館文化事業協会に補助金を交付し、市民会館の向上に寄与するため、市民会館大ホール及び公民館小ホール等を利用して、公益的な文化芸術事業を実施する。 ○大ホール自主事業7回、大ホール共催事業4回、新能公演1回、小ホールジャズライブ1回、合計13回の事業を実施した。					平成28年度の自主事業は、9回の実施において入場者数は、延べ4,628人である。事業収入（チケット売上金、広告掲載手数料、販売手数料等）と市補助金で運用している。																																																																											
	コスト																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(単位)</th> <th>27決算</th> <th>28当初予算</th> <th>28決算</th> <th>29当初予算</th> <th>備考＜特財名称等＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接事業費</td> <td>千円</td> <td>17,400</td> <td>17,400</td> <td>17,400</td> <td>17,400</td> <td rowspan="10"></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td>17,400</td> <td>17,400</td> <td>17,400</td> </tr> <tr> <td>一般職員人件費</td> <td>千円</td> <td>4,035</td> <td>4,150</td> <td>798</td> <td>832</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td>0.50</td> <td>0.50</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>千円</td> <td>21,435</td> <td>21,550</td> <td>18,198</td> <td>18,232</td> </tr> </tbody> </table>												(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞	直接事業費	千円	17,400	17,400	17,400	17,400		財源内訳	国庫支出金	千円				都支出金	千円				地方債	千円				その他特定財源	千円				一般財源	千円	17,400	17,400	17,400	一般職員人件費	千円	4,035	4,150	798	832	人工数	人	0.50	0.50	0.10	0.10	再任用職員人件費	千円					人工数	人					総事業費	千円	21,435	21,550	18,198	18,232
		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞																																																																										
	直接事業費	千円	17,400	17,400	17,400	17,400																																																																											
	財源内訳	国庫支出金	千円																																																																														
都支出金		千円																																																																															
地方債		千円																																																																															
その他特定財源		千円																																																																															
一般財源		千円	17,400	17,400	17,400																																																																												
一般職員人件費	千円	4,035	4,150	798	832																																																																												
人工数	人	0.50	0.50	0.10	0.10																																																																												
再任用職員人件費	千円																																																																																
人工数	人																																																																																
総事業費	千円	21,435	21,550	18,198	18,232																																																																												
個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による																																																																																	
事務事業評価	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3																																																																						
	判断理由				市民への文化芸術鑑賞の機会を提供する目的のための事業であり、当該事業の優先度は2番目である。				判断理由				文化事業協会理事会での意見を基に、近隣市の公演状況や集客率等を参考に、事業内容を考慮し実施している。																																																																				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				4																																																																						
	判断理由				開催事業において、幅広い年齢層への対応を目標としているため、事業内容等、偏らないよう創意工夫し実施している。				判断理由				文化事業協会専任職員及び臨時職員の2名で補助金を活用し、効率的な事務事業が実施できた。																																																																				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題																																																																																
	市民が文化芸術に親しみ、感動や喜びを、やすらぎなどを享受することができるよう事業を企画しているが、催物によっては集客数が少なく、収支のバランスが難しい。開催事業の選定を重視したい。																																																																																
今後の方向性 (右より選択)											E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持																																																																				
平成30年度予算編成における具体的な取組													外壁改修工事が竣工する7月以降に密に自主事業を実施し、多様な芸術鑑賞の場を提供したい。																																																																				

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	公民館運営審議会事務		部	生涯学習部		課長	並木 映子					
			課	市民会館・公民館		担当	遠藤 弘文					
			係	事業係		電話	内線2277					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）					社会教育法 市公民館運営審議会					
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）					条例 市特別職報酬条例					
中項目	01 生涯学習					法令による事業実施義務						
個別計画（年度）	昭島市教育振興基本計画						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	07	細目	002	細々目	01		
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞					＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞						
	市民					調査審議により、利用する市民や団体へ良好な学習環境を醸成する効果や市民ニーズの高い講座等事業の提供を図る効果がある。						
	実施内容					実績・成果						
	○公民館運営に関し必要な事項を審議。 ○公民館各種事業の企画実施について必要な事項を調査審議。 ○公民館の課題について検討 ○諮問を受け答申を作成。 ○定例会月1回開催のほか、東京都公民館連絡協議会研修会等への参加					定例会を毎月1回開催したほか、東京都公民館研究大会や各種研修会に参加した。館長より諮問「市民が集う公民館主催事業のあり方」を受け、答申を提出した。定例会では随時提案等があり、公民館事業等について、より市民ニーズの高いものへ導いている。						
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	1,404	1,420	1,324	1,424					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
地方債		千円										
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	1,404	1,420	1,324	1,424						
一般職員人件費		千円	807	830	798	832						
人工数		人	0.10	0.10	0.10	0.10						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	2,211	2,250	2,122	2,256						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				2		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				同審議会の提案等により公民館事業をより市民ニーズの高い事業環境へ醸成している。		判断理由				社会教育法に基づき設置され、民意を反映する機関として機能しているため、他機関では難しく、妥当性がある。法的には館長の諮問機関となっている。	
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由				公民館運営審議会の提案等により、市民ニーズの高い事業環境へ醸成する成果が概ねある。		判断理由				コストはやや減少（前年度比10%以内）したなかで、答申や提言等も多く受けている。	
	第五回総合基本計画前半期の評価と今後の課題 ○多岐にわたる提言等をいかにして事業展開していくかが課題となっている。											
課題と今後の方向性	今後の方向性（右より選択）		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持							
	平成30年度予算編成における具体的な取組 ○当該事務事業は民意を反映する審議会に係る事務であり、既に最低限度の額であり現状維持を予定している。											



平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	公民館管理運営		部	生涯学習部		課長	並木 映子					
			課	市民会館・公民館		担当	遠藤 弘文					
			係	事業係		電話	内線2277					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目	03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）				社会教育法 昭島市公民館条例						
	大項目	03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）				同条例施行規則						
中項目	01 生涯学習				法令による事業実施義務							
個別計画（年度）							<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	10	項	04	目	07	細目	003	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民、公民館登録団体						市民に実際生活に即する教育、学術及び文化に関する学習の場を提供することで、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。					
	実施内容						実績・成果					
	○市民の集団活動の拠点、学び、文化創造のばとしての施設の提供						公民館で活動する団体は、約400団体あり、市民活動の拠点となっている。施設の利用率も88%と市民ニーズは高い。					
	○自由に集える拠点の場として新聞、書籍等閲覧の提供											
	○印刷機の設置						施設利用人員総数：121,414人					
	○複写機（有料）の設置						公民館使用料収入：1,006,060円					
	○視聴覚機材の提供						複写機利用料収入：186,580円					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	1,574	1,542	1,476	1,595	その他特定財源 ・公民館使用料 ・複写機利用料 ・市民総合賠償補償 保険金				
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円	1,187	1,542	1,126	1,595						
一般財源		千円	387	0	350	0						
一般職員人件費		千円	3,228	3,320	3,192	3,328						
人工数		人	0.40	0.40	0.40	0.40						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	4,802	4,862	4,668	4,923						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				判断理由							
	社会教育法第3条に、地方公共団体はあらゆる機会にあらゆる場所を利用して、市民が実際生活に即する教養を高められるような施設の設置や運営が奨励されている。また、平成27年8月の市民意識調査において市民活動のために市が力を入れるべきことに「活動場所の提供」の割合は31.1%あることも勘案した。				公民館と市民会館の併設館により合理的な事業運営となっているので、現状の方法が妥当である。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）				3		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
判断理由				判断理由								
施設の利用率の高さなどから成果は上がっている。また、社会教育法の観点からも概ね目的を達成している。				平成27年度は備品購入によりコストが増加したが、今年度については、おおむね平成26年度と同等のコストとなり、また、サービス内容や量は変わっていないので、効率よく実施できた。								
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	小ホール等防音施設の利用率が高く、予約を取りにくい状況がある。 経年劣化による備品等の入替時期となっている。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
							平成30年度予算編成における具体的な取組					
						当該事務事業は、消耗品費・郵送料が既に最低限度の額であり、毎年精査はしているが流用等により対応している現状があるので、増額の見込み。						

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署											
	学級・講座等事業		部	生涯学習部		課長	並木 映子							
			課	市民会館・公民館		担当	遠藤 弘文							
			係	事業係		電話	2277							
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞							
	政策項目		03 未来を育む あさしま（教育・文化・スポーツの充実）				社会教育法 市公民館条例 同条例施行規則 教育振興基本計画 第2次市生涯学習推進計画							
	大項目		03 「あさしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）				法令による事業実施義務							
中項目		01 生涯学習				法令による事業実施義務								
個別計画（年度）						<input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり <input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input checked="" type="checkbox"/> 都補助等あり								
予算科目コード		款	10	項	04	目	07	細目	004	細々目	01			
事務事業概要	目的													
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞							
	市民						市民の実際生活に即する教育、学術、文化に関する各種の講座事業などとおし、教養の向上や健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。							
	実施内容						実績・成果							
	○市民講座8事業24回 ○市民大学6事業41回 ○シニア講座1事業4回 ○地域公民館事業4事業10回 ○交流鑑賞発表のつどい3事業2回 ○自主企画事業3事業12回 ○障がい者青年学級1事業23回 ○研修・講習事業1事業1回 ○利用者懇談事業3事業12回						市民講座等30事業を実施。高齢者向け事業、保育付事業、障がい者学級では、一部都補助金の対象となっている。また、市民大学修了生や各種講座の受講生が市の審議会委員として活動したり、福祉や環境などの地域活動を行うなど成果が出ている。							
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞						
	直接事業費		千円	2,756	3,198	2,469	3,147	都支出金						
	財源内訳	国庫支出金	千円					・障害者施策推進区						
		都支出金	千円	538	589	503	676	市町村包括補助金						
		地方債	千円					・高齢社会対策区市町村包括補助金						
その他特定財源		千円	145	353	179	385	・子ども家庭支援区							
一般財源		千円	2,073	2,256	1,787	2,086	市長村包括補助金							
一般職員人件費		千円	30,666	31,540	30,324	31,616	その他特財							
人工数		人	3.80	3.80	3.80	3.80	・公民館使用料							
再任用職員人件費		千円					・複写機利用料							
人工数		人					・各種講習会等負担金							
総事業費		千円	33,422	34,738	32,793	34,763	金							
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による													
	①優先度（どの程度優先されるべきか）						4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由						判断理由							
	めまぐるしく変化する現代社会において様々な課題や新しい情報が飛び交い、生涯いつでも学べる教育環境を醸成することが大切で、各種講座等事業を開設する必要がある。これらの学びにより家庭や地域社会の教育力の向上や社会福祉の増進へ導くことになる。優先度は2番目であるが1番目と僅差である。						講座等事業の実施は職員が企画運営の多くを担っているが、市民企画事業や協働事業を取り入れ住民参加型の地域と歩む公民館としている。公民館は、社会的課題講座や市民協働事業が多くなる中で、コーディネート能力が求められ、地域の行政や住民を良く知る市職員の存在が不可欠で実施方法は妥当である。							
	③達成度（成果はどの程度あるか）						3		④効率性（効率的に実施できたか）				4	
判断理由						判断理由								
年間を通じ社会的課題講座を実施したほか、地域の小学校との連携による事業を実施し、学習の機会提供や文化の振興を図り達成度は高い。						講座等事業は通常年並みとなったが、講師等構成を工夫し予算額に対し支出の抑制に努め、コストは前年度とほぼ同等に収まっている。								
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題													
	○市立会館等へ出向いた講座も実施しているが、遠方の市民には気軽に参加までとはいえない。 ○幅広い年齢層の参加を想定し、週末中心の事業を実施しているが、なかなか若者が集まらない。日程について再考の必要がある。 ○市民企画事業や協働事業では実施までに多くの時間を費やす。													
今後の方向性		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持										
平成30年度予算編成における具体的な取組														
○各種事業講座等事業の市民ニーズや効果、意義を精査した予算編成に努める。														

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	市民文化祭事業		部	生涯学習部		課長	並木 映子					
			課	市民会館・公民館		担当	遠藤 弘文					
			係	事業係		電話	内線2277					
	第五次総合基本計画における位置付け						実施根拠＜法令、要綱等＞					
	政策項目		03 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）									
	大項目		03 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）									
中項目		01 生涯学習										
個別計画（年度）		昭島市教育振興基本計画										
予算科目コード		款	10	項	04	目	07	細目	005	細々目	01	<input type="checkbox"/> 義務（ <input type="checkbox"/> 市上乗せあり） <input checked="" type="checkbox"/> 任意（ <input type="checkbox"/> 都補助等あり）
事務事業概要	目的											
	＜対象は誰、何か＞						＜対象をどの程度の状態にすることを意図しているか＞					
	市民・市民団体						文化芸術振興は、心豊かな活力ある社会形成の形成重要な意義がある。市民に日頃の文化・芸術活動の成果を発表できる機会を提供し、生きがいづくりや市民の交流を図る。					
	実施内容						実績・成果					
	○10月7日～11月3日（14日間） ○主催：昭島市・昭島市教育委員会 主管：昭島市文化祭運営委員会 ○参加：28部門（75団体） ○演奏・演芸（民謡、合唱、人形劇、朗読、大正琴、うたごえ、歌謡、邦楽、芸能、ジャズ、フラダンス、音楽祭）○展示（美術展、書道展、科学展、華道展、手工芸展、俳句展、平和展、山野草展、盆栽展、短歌展、菊花展、写真展、陶芸展）○対局ほか（将棋、囲碁、茶会）						参加者：延15,305人 出展、出演者等：28部門（75団体）					
	コスト		(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	2,505	2,605	2,585	2,605					
	財源内訳	国庫支出金	千円									
		都支出金	千円									
		地方債	千円									
その他特定財源		千円										
一般財源		千円	2,505	2,605	2,585	2,605						
一般職員人件費		千円	5,649	5,810	5,586	5,824						
人工数		人	0.70	0.70	0.70	0.70						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	8,154	8,415	8,171	8,429						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				4		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由				文化祭は、市民の日頃の文化・芸術活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として、多くの市民に親しまれ、ニーズもあり、文化活動の振興と地域文化の向上発展など活力ある社会形成に必要である。				判断理由			
	主催は市及び教育委員会であるが、運営を参加団体から選出された市民で構成される文化祭運営委員会へ委託している。日程の調整から委託金の管理、ポスター等の地域配布、オープニングフェスタの運営、のぼり旗の設置、会計収支の監査など市民委員が企画・運営等を行っている。											
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
判断理由				参加75団体及び参加者15,305人（1日平均1,093人）とがあり多くの市民に親しまれている。出展、出演者は日頃の文化芸術活動などの成果を発表する機会を提供することから好評で事業の達成度は高い。				判断理由				
新たにフラダンス部門が増えたが、コストは前年とほとんど変わらず、観覧者は前年度と比べほぼ同程度であり効率的に実施できた。												
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題 ○運営委員会への委託事業であるが、協議に相当な時間を要する。また、公民館が事務局のため担当職員の役割や負担が大きい。 ○参加団体の高齢化が進んでおり、世代交代が進んでいないため、運営に負担がかかっている。						今後の方向性 (右より選択)		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持	
	平成30年度予算編成における具体的な取組 ○文化芸術に振興に寄与できる当事業の予算は、現状維持としたい。											